

全体会 I

司会者 それでは、ただ今より全体会 I を始めたいと思います。全体会の司会を担当させていただきます、上板中学校3年のDです。よろしくお願いします。「差別を撲滅 求める平和の輪」のメインスローガンのもと、全体会 I では、このあと、本日ここに集まったみなさんの、それぞれの学校の紹介をしていただいたあとに、意見発表をしていただきたいと思います。それでは、学校紹介をお願いしたいと思います。お手元の資料の参加校順に行いたいと思いますので、最初に川内中学校をお願いします。

川内中学校 おはようございます。川内中学校のキュートな3年生女子8名とさらにキュートな1年生男子1名です。私たちの学校は、ここから車で北へ15分くらい走ったところにあります。生徒数は400名あまりですが、北は松茂の手前、南は小松海岸まで、校区はかなり広いです。生徒の大多数は部活動に参加していて、放課後は熱心に練習しています。7月に行われた徳島市の総体では、バレー部は優勝、サッカー部は準優勝、バドミントン部は3位でした。9月には文化祭があり、夏休み中から準備をしています。学級対抗の合唱コンクールも兼ねていて、ひそかに闘志を燃やしています。11月には人権集会を開催し、人権劇を上演します。その後、全校生で意見交換会を行い、人権問題についてみんなで話し合います。今回の人権集会のことも報告したいと思います。せっかくの機会なので、たくさんの仲間をつくり、有意義な1日にしたいです。よろしくお願いします。

司会者 ありがとうございます。続いて応神中学校をお願いします。

応神中学校 私たちの学校、応神中学校は、徳島市内でも吉野川の北側にあり、東には川内町、北には北島町や藍住町があります。全学年122人で、他の学校と比べると人数が少ないです。でも、人権のこととなったら、みんな真剣に考えています。9月9日にある文化祭では人権劇

をします。去年から全学年で取り組んでいます。去年は狭山事件や障害者問題、結婚差別、いじめ問題についての劇をしました。文化祭には町内の人たちがたくさん来るので、みんなの劇でたくさんの人たちにいろんな人権のことについて分かってもらいたいと思っています。また、応神町にあった学習会は、中学生友の会に変わり、現在は毎週2回のペースでやっています。日頃は19時30分から21時までの1時間半勉強をしています。だいたい学校の宿題などをやるけど、たまに人権学習もします。8月18日には、保護者の人にも手伝ってもらってバーベキュー大会をし、仲間づくりをします。友の会に来ている人は、たまに遊んだりもするけど、真剣にもやったりといろいろですが、今のところは、みんな満足しながら活動していると思います。今日はたくさんの仲間をつくり、話も聞き、また自分たちのこともしゃべっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。



司会者 ありがとうございます。続いて大麻中学校をお願いします。

大麻中学校 大麻中学校は、鳴門市の西部にある、全校生徒302名の学校です。大麻町には、学校で行っている人権学習に加えて、地域を主体とした育友会の活動があります。育友会は毎週月曜日の放課後、鳴門市青少年会館を会場に、中学生と高校生が共に同和問題をはじめ、さまざまな人権問題解決に向けての取り組みを行っています。昨年は、自分たちの住んでいる地域を紹介するフィールドワークマップやビデオの作成を行いました。今年は狭山事件について学習し、まとめたことを、11月に行われる鳴門

市の人権文化祭でパネル展示する予定です。今日は育友会のメンバー6名でこの集会に参加しています。よろしくをお願いします。

司会者 ありがとうございます。続いて藍住東中学校をお願いします。

藍住東中学校 藍住東中学校の紹介をします。藍住東中学校は、今年創立20年目を迎えます。本校ではボランティア活動や生徒会活動が盛んで、アルミ缶回収を積極的に進め、福祉施設に車いすを送っています。また学校版環境ISOとして、学校の省エネルギー・省資源にみんなが関心を持って取り組んでいます。そして、ふれあい子どもクラブでは、地域の方々や多くのサポーターの方々に支えられながら、教科の学習、子ども会活動や人権学習に取り組んでいます。今日はこの人権を語り合う中学生集会で、多くの学校の人たちと意見交換しながら、人権に対する意識を高めていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

司会者 ありがとうございます。続いて板野中学校をお願いします。

板野中学校 板野中学校の紹介をします。私たちが通う板野中学校の中庭には、芝生が広がり、緑がとても美しいところです。そして町内にはあすたむランドがあり、自然がいっぱい体験できるところです。今年は校舎の耐震工事が夏休みに入って始まり、今工事の真っ最中です。2学期になってどんな校舎になっているのかがとても楽しみです。今日は、板野中学校から中学生友の会に参加しているメンバーと、高校生友の会のメンバーとで参加しています。中学生友の会では、部落差別をはじめとするさまざまな差別について話し合ったり、一泊研修などの行事で仲間づくりをしたり、「山の粥」という人形劇を練習して、小学生のみんなに見てもらったりする活動をしています。また、高校生友の会の先輩方とも交流して教わることもあります。今日は1日よろしくをお願いします。これで板野中学校の紹介を終わります。

司会者 ありがとうございます。続いて上板

中学校をお願いします。

上板中学校 私たち上板中学校は、今日6人で来ています。実行委員長はじめ、明るく楽しい仲間たちです。今日の集会までに、実行委員会に参加してきて、人権についていろいろな話し合いを重ねてきました。今日は他校の人たちと人権について話し合い、仲間になって楽しい1日にしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

司会者 ありがとうございます。続いて加茂名こぼと子ども会をお願いします。

加茂名こぼと子ども会 加茂名こぼと子ども会のHです。加茂名こぼと子ども会の紹介をしたいと思います。加茂名こぼと子ども会は、加茂名中学校校区のすべての子どもたちに呼びかけて、人権問題解決に向けての活動をしている子ども会です。週1回の勉強では、国語や数学の学習に取り組んでいます。その他にもキャンプや遠足などの活動を通して、人権問題を考えたり、仲間づくりに取り組んでいます。子ども会の活動を支えてくれているのは、地域の高校生友の会で活動している高校生や青年の人たちです。学習会はなくなりましたが、僕の地域ではこうして続いている子ども会があります。僕も高校生になったら、この子ども会の活動を支えていくスタッフとして頑張れるように、しっかりと勉強していきたいです。これで終わります。

司会者 ありがとうございます。続いて市立川島中学校をお願いします。

市立川島中学校 市立川島中学校は、今ふれあい人権学習会っていうのがあって、人権活動では、校内人権問題意見発表会や、文化祭の人権劇をしています。今年は、去年と比べて、この中学生集会を校内バージョンでやろうということで、また2学期か3学期に、分科会ごとに分かれて学校でやるように、今、計画を立てています。学習会のみんなは、人数が少なかったのですが、今14人ほどいて、教科ごとの勉強もしているけど、フリートークみたいな感じで、

みんなが思っていることを言ったり、作文発表をしたりしています。人権劇では、外国人やいじめ、部落問題などを中心に劇を先生がつくってくれていて、それを毎年、1年生から3年生までの希望者だけで文化祭で発表することになっています。校内人権問題意見発表会は、各学年のクラスごとに1人ずつ前を出て作文を発表して、終わった後は、感想を含めたフリートークで中学生が司会をして、みんなでいろんなことを語り合っています。クラスでの人権学習は、あまり意見が出ない時もあるけど、できるだけ生徒だけでできるように、みんなで人権問題を取り組んでいます。これで市立川島中学校の紹介を終わります。

司会者 ありがとうございます。続いて鴨島東中学校をお願いします。

鴨島東中学校 鴨島東中学校は、3年前に人権学習部ができて、それからは人権学習部が先頭に立って、学校の人権リーダーとして頑張っています。今年の9月に東中祭があって、その文化の部で人権劇をする予定です。なので今日は少しでも人権劇に役立てるような知識を得て帰りたいと思います。これで終わります。

司会者 ありがとうございます。続いて中山中学校をお願いします。

中山中学校 中山中学校は、学校の近くに山や海があって、たくさんの自然に囲まれた学校です。中山中の学習会は、地区内の人だけでなく、地区外の人も参加しています。中山中の学習会は、主に同和問題について話し合ったりしています。文化祭には毎年人権劇をしています。今日は1日よろしくをお願いします。

司会者 ありがとうございます。続いて名和中学校をお願いします。

名和中学校 名和中学校です。僕たちの名和中学校は、北は日本海、南には大山がある、とても自然豊かなところにあって、全校生徒は約160人ぐらいです。名和中学校の人権学習は、水平社などの資料を読んだり、学習会について

学んだりという同和問題を中心に行っています。その中でも、一番大きな行事は、2学期にある人権弁論で、全員が自分の意見や考え、体験をクラスの中で発表して、それについてクラスのみんなで意見を返そうという取り組みです。また、地区進出学習会では、僕たち同和地区に住んでいるメンバーが、毎週木曜日に午後6時から7時半まで人権交流センターというところ集まって行っています。内容は、人権劇を学校の文化祭で発表して、劇を見ている人に人権についてよく考えてもらったり、人権に関するビデオを見て、自分の考えや感想を文に書いてみたり、今回のような県外学習などがあります。今回のこの交流では、仲間をつくり自分の考えを言えるようになることを目標に頑張りたいと思います。そして、学校みんなに今回の交流で学んだことや感じたことを伝え、今後の人権学習に生かしていきたいです。今日はよろしくをお願いします。

司会者 ありがとうございます。続いて北暎中学校をお願いします。

北暎中学校 鳥取県の湯梨浜町から来ました北暎中学校です。2年前の合併まで羽合町といていた町にあります。日本のハワイとしても有名なところですよ。全校生徒は337人で、各学年に4クラスずつと、特別支援学級が2クラスあります。うちの学校では、今でも週1回木曜日の夕方に、地区進出学習会を行っています。今参加しているのは、3年生3人、2年生5人、1年生6人で、合計13人です。13人のうち、部落に住んでいるのは7人で、小学校の時から学習会に参加していました。あと6人は、中学



生になってから、差別をなくす力をつけるために自分も一緒に取り組みたいと参加しています。毎年夏休みに県外視察研修を行っていて、今年はずいぶん他の中学校との交流をしたいと思って、交流集会に参加させていただきました。交流会にはあまり慣れていないので大人しく思われるかもしれませんが、みなさんの力を借りて、思いを伝え合える1日にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司会者 ありがとうございます。これで参加校すべての学校紹介が終わりました。意見発表の方につりつきたいと思います。本日意見発表してくださるのは、応神中学校3年のIさん。板野中学校3年のJさん、川内中学校1年Kさん、上板中学校2年Gさんの4人から意見発表をいただきます。それではまず、A分科会から、同和問題について、応神中学校3年のIさんに意見発表をしていただきます。

A(同和問題)分科会意見発表

「部落差別に対する考え」

応神中学校3年 I

みなさんは、部落差別をしていないと言えますか。言えるという人は、もし自分の子どもが「部落の人と結婚する」と言ってきたら、部落という言葉にひっかかりはしませんか。もしひっかかりがあるようなら、その人は部落差別をしているように、僕は思うのです。部落というもの自体、本来ないものであり、昔の制度で定められていたものが、現在でも残ったものだと学習しました。そんなものがあるから、今も苦勞させられているのです。

僕が中学2年の時、ある同級生が、学級での話し合いでこんなことを言いました。

「私、こわい。」

その子は、僕と同じ同和地区の出身で、自分が同和地区出身であることで、差別にあうのがとても恐かったようです。なぜそんなことを思ったかという、両親が部落差別によって離婚したことで、同和地区出身ということが、将来自

分にとってもハンディキャップになると感じたからでした。

また別の子は、

「今つき合っている人が、同和地区出身だということで、親につき合いを反対された。」

と、泣きながら言っていました。好きでつき合っているのに、親に反対されたというのが、とても嫌だったのです。僕は、その親の言っていることが、何だか自分に言われたようで、本当に腹立たしい気持ちになりました。本当に泣きたいのは僕の方だと思いました。

「部落差別はもうなくなった」という人がいるようです。でも、先ほどの話のように、被差別の立場として不安を抱えさせられている同級生もいます。また、部落差別に巻き込まれている子もいます。そんな部落差別の現実が見えてくると、「部落差別はなくなった」とは、到底言えないように思うのです。

今年、学校であった人権作文意見発表のうちで、3人の意見発表が、同和問題についての内容でした。それらもまた、部落差別の現実を伝えるものでした。

1人目の内容は、両親が結婚した時のことについてでした。自分の父親が同和地区出身で、母親は地区外の立場として結婚するというので、とても反対をされたそうです。その反対を乗り越えて結婚をした両親が、とても素晴らしく思え、好きだと発表していました。僕は、自分の両親の結婚のことについては、直接何も聞かされていませんが、少なからず反対の声があったとも聞きます。それでも結婚をした僕の両親も、1人目の両親と同じくらいスゴイと思いました。

2人目の内容は、家族関係についてでした。両親の仲がいいのか良くないのか分からず、家族関係に不安を持っていたとき、ある日偶然、自分の母親が同和地区出身であることを聞いてしまい、泣いてしまったそうです。それは、自分の母親が同和地区出身であるから泣いたのではなく、「部落差別は今もあるんだ」という現実、あらためて気づかされたことへの、怒りの涙だったそうです。でも、部落差別に打ち勝ち結婚した、両親の強い信頼関係の素晴らしさに、時間をかけて気づくとともに、家族との対話を大切にしようと思うようになったと発表していました。

3人目の内容は、地区外の友達の、生活における細かな部落差別についてでした。その友達の親が同和地区の人を嫌っているためか、人権に関するイベントなどでもらってきた手提げ袋を、何かの時に使おうとすると、そんなささいなことにすら拒否感を示すという内容でした。でも、その友達は、「家の中にある部落差別を自分の代でなくす」と、最後に力強く言っていました。僕にはその一言が、とてもうれしく思えました。部落差別をなくそうとしている仲間がいて、それを作文にして発表してくれることが、とてもうれしかったのです。僕も負けることなく、部落差別をなくしていきたいと思いました。

他にも、悩みをもった子はたくさんいました。僕にも将来への不安があります。結婚するとき反対されたりするかもしれません。こんな不安を残す差別を、僕は許しません。

みなさんも考えてみてください。どうすれば部落差別がなくせるのか。どうすれば部落差別をしないかを。僕は、部落差別については受ける立場であり、「部落差別がなくなればいいのに…なくしていきたい！」といつも思い、考えています。みなさんも、考えてみてください。どうすれば部落差別がなくなるのかを。ヒトゴトではなく、ワガコトとして。

司会者 ありがとうございます。続いて、B分科会から、いじめ・不登校問題について、板野中学校3年Jさん、お願いします。

B(いじめ・不登校問題)分科会意見発表

「いじめ・不登校について」

板野中学校3年 J

私は小学校のとき、いじめられていました。最初は、いじめられているとは思っていませんでした。みんな悪ふざけかなーと思っていました。そしたら、だんだんいじめがエスカレートしていった、一番ひどかったのは、教室に入れてくれませんでした。そのとき、誰一人私の味方をしてくれませんでした。まだ小さかったので、「死にたい」とかは思いませんでしたが、学

校に行きたくありませんでした。でも、がんばって学校に行きました。いじめが2年ぐらい続いて、いじめのターゲットが変わりました。それで私はいじめから解放されました。その時は、「やっと解放されたー」と思っただけで、助けてあげたいとは思いませんでした。あのとき、私は何をしてあげれたんでしょうか。何と声をかければよかったんでしょうか。今でも、思い出すことがあります。

今の私の状況は、教室に行けていません。保健室登校です。本当は、学校にも行きたくありません。行くことを考えただけで吐き気がします。もう、保健室から一歩も出たくありません。

教室に行くと、無意識にシャーペンやカッターを腕に持って行って傷つけてしまいます。血が出ると落ち着いて、何度もやってしまいます。血が腕に流れて行って生きているんだなあ、実感します。生きていると思っても、生きたいとは思いません。死にたいという気持ちでいっぱいです。そのせいで、私は精神的にまいってしまいました。

みんなから「早く教室に来なよー」って言うてもらえるのはうれしいけど、その言葉は私にとって重いんです。でも、みんなが心配してくれるので、私は幸せです。教室では1人でいるけれど、みんなに心配してもらえるので、心があたたかくなりました。でも、教室に行ったら、みんなが敵に見えてしまいます。私は教室に行くことを、おそれてしまいます。

一時、不登校にもなりました。友達のあたたかい言葉も受け入れられなくなってしまい、人間不信になってしまいました。また、カッターなどで、腕や顔を傷つけたりして、自傷行為を何度もしてしまいました。今の私の体は傷だらけで、痛々しくなっていました。こんな生活だったら死んだ方がましだと思ったこともあります。でも、どんなにつらいことがあっても、死にたいと思っても死ぬことはできないんだなあと思い、がんばって笑顔で学校に行くことを決意しました。保健室登校になってしまったけど、これからもがんばって行きたいと思いますが、教室にはいけません。

みなさんには、私みたいな思いをしてほしくありません。いじめられたり、自分のことを分かってもらえなかったりすることは、屈辱的です。

だからといって、自分を傷つけたりすることはしてほしくありません。みなさん、人をいじめたり、けなすようなことを言ったりするのは、やめましょう。こんなにつらいことはないのです。

私がいじめられていたときは、誰一人私の言うことを信じてくれず、守ってくれませんでした。親には心配かけたくないので、相談ができませんでした。今でさえ、誰にも相談できません。私を守ってくれる友達にさえ相談できません。この前も、誰も私を守ってくれませんでした。口では、「私はあんたの味方だからね」って言っていたけど、結局私の味方になってくれなかった。教室に無理に行かそうとした。そういうのがあったから、以前より自傷行為をする回数が増えてきました。でも、ある1人の子が、私のことを、裏切らずに守ってくれました。その子のおかげで、今私は少しずつだけ学校に行けるようになりました。それからなぜか、少しずつ友達も信用できるようになりました。私は、いじめられていても、不登校になっても、自分を守ってくれる子は、どこかにいるはずって思いました。これから少しずつ学校に行き、いつか教室に行けるようになりたいです。みんなの前に出られるように、がんばりたいです。

みなさんには、私のような思いをしてほしくないのです。みなさんには、こんなみじめな思いは絶対にしてほしくありません。だから、できるだけいじめなどを、この世から消したいです。私の発表を聞いてくださってありがとうございました。

司会者 ありがとうございました。続いて、C分科会から、障害者問題について、川内中学校1年Kさん、お願いします。

C(障害者問題)分科会意見発表

「共に生きる社会を目ざして」

川内中学校1年 K

中学校に入学してから、総合学習の時間は福祉をテーマに学習しています。いろんな方を招

いてお話を伺いました。たくさんのことを学ぶことができ、よかったと思っています。体の一部が不自由だったり、うまくしゃべることができなかったりと、様々な障害のある人にも出会いました。目が見えなかったり、耳が聞こえなかったり、手足が自由に動かない障害があるのは、生活していくうえですごく大変だと思います。総合学習の時間に、点字を実際に打ってみたり、アイマスク体験をしたりして、大変さを実感することができました。点字ブロックの上に、平気で自転車を置いたり、車いす専用の駐車スペースに車を止めたりすることは、絶対にいけないことも学びました。僕は、久保修さんのお話が特に心に残りました。久保さんは、障害は不便だけれど、不幸ではない。妻や息子、そして友達もいて、僕は楽しく暮らしていますとおっしゃいました。久保さんは小児マヒという病気のために、手足と言語に障害があります。大変な苦勞をして、リハビリをし、歩けるようになったこと。障害があることで、いじめられたこともあると話してくださいました。最近少しずつハード面のバリアは取り除かれて、以前より生活はしやすくなったけれど、まだ、人の心の中に障害者に対するバリアを感じるとも話されました。心のバリアフリーが必要だとおっしゃいました。僕もその通りだなと感じました。

また、高校の時の事故で頸椎を損傷し、足と胴の感覚がなく、車いすで生活されている天野さんのお話も、印象的でした。手の握力がないので、靴下をはくのも大変だそうです。天野さんは得意の英語を活かし、福祉を学ぶリーダー養成研修に応募し、3回目の挑戦で合格しアメリカに渡りました。そして、障害者が1人で自立して生活できる町の様子にカルチャーショックを受けたそうです。どの人も、障害は変わらないんだから、社会が変わればよいという意識を持っているんだそうです。日本はじろじろ見たり、特別扱いしたりすることが少なくないと思いますが、天野さんが過ごしたパークレーという町では、障害のある人が、自分の障害を意識せずに生活できると話されました。障害のある人が暮らしやすい町は、そうでない人にとっても暮らしやすい町です。誰もが快適に生活できる社会を、目指すことの大切さを学びました。

同級生のnくんは、足が不自由で、車いすと

歩行器を使って、学校生活を送っています。小学校がちがうので、まだあまり親しくありませんが、nくんが気持ちよく学校生活を過ごせるように、僕はサポートしたいと思います。障害のあるなしにかかわらず、すべての人が共に生きる社会を目指して、中学生の僕にできることが何かを考え、実行していきたいと思います。



司会者 ありがとうございました。それでは最後に、D分科会から、女性差別について、上板中学校2年Gさん、お願いします。

D(女性差別)分科会意見発表

「人間として生まれ思うこと」

上板中学校2年 G

私が女性差別の意見発表をしたいと思ったきっかけは、女の子はよくあると思いますが、おばあちゃんや母に「女らしくしなさい」とか「女の子なら家事ぐらいできなあかん」と言われ続けていて、私は「なぜ、女らしくしなければいけないのか」とか「なぜ、女は家事をしなければいけないのか」と思ったからです。

小学校の頃に、先生や他の女の子からも「女の子なんやけん、女の子らしくしなさい」とか言われ続けました。しかし、私には納得がいかず、疑問ばかりが浮かびました。今もそうです。例えば、「学校の制服はなぜ、女子はスカートなのだろう」とか「なぜ、男と女には差があるのだろう」という疑問が出てきます。体力とかは仕方ないと思いますが、服装とかはなぜでしょう。別に女子がズボンをはいてもおかしくはな

いと思います。

また、よく男子にも「女のくせに威張るな」とか、男の子に力勝負で勝つと「お前なんか女じゃない」とか言われますが、それは女性として、いけないことなのではないでしょうか。女の子の中でも力が強い子はいます。それなのに、それを認めず、「女ではない」と言うのは失礼でしょう。

そもそも、『女』って何をする人なのでしょう。家事をする人でしょうか。しかし、世の中には家事をしない女性もいます。子育てをする人でしょうか。女性は子どもを産むことができますが、産まない選択をすることもできます。

それでは、一体、何をする人なのでしょう。私も分かりません。女の人って別に家事や子育て、出産をしなくてもいいと思います。人には人の生き方があり、それに他人がとやかく言う必要はありません。自分の人生なのですから。自分のやりたい格好やしたいことを他人に制限されたり、決めつけられたりするのをおかしいことだと思うのです。

男の子でも、「男なら泣くな!」とか、「男なら勇気を持って!」とか言われますが、別に泣いたって、勇気がなくなっただけいいじゃないですか。男の子が手芸とかしていたら、「こいつ、男のくせに女みみたいな事をしている」とか言う子がいますけど、男でもやっていいじゃないですか。その人のしぐさや行動を見て、偏見を持つ心を見つめ直し、人間として正しい考え方を身につめ直すべきだと思います。

異性に対する何か見えない偏見があるみたいです。男の人と女の方は同じ立場であり、世の中には男女によるさまざまな不合理な関係がまだまだ残っています。

私は、男の人と女の人など性別によって分け隔てることなく、自分自身の誤った偏見をなくしていきたいと思います。そして、みんなでこのことについて、考えていきたいと思っています。

司会者 意見発表をしていただいたみなさん、ありがとうございました。元の席にお戻りください。